

第4回 斜面工学研究小委員会 議事録（案）

日時：平成 27 年 2 月 4 日（水） 14:00-18:00 予定

場所：土木学会 E 会議室

出席者（敬称略）：鈴木、藤井、野田、上野、美馬、大野、瀬戸、
茂木、吉田、片山、ハスパートル、吉川、中村

報告事項

1. 前回議事録の報告

鈴木委員長より、前回 12 月 10 日に開催された第 3 回委員会で議論された内容に関しての報告がなされた。

2. 12/17 重点課題研究集会

鈴木委員長より、昨年 12/17 に開催された重点課題研究集会（火山地域における土砂災害発生メカニズムと社会的対応に関する研究集会）に関する報告がなされた。会場は地盤工学会地下講堂で、80 人近い出席者があった。斜面工学小委員会関係者では、鈴木委員長（伊豆大島台風災害の調査成果）、稲垣委員（日本の活火山と土質や斜面に関する説明）、大野委員（伊豆大島台風災害における災害廃棄物について）、荒木委員（伊豆大島の火山灰の土質工学的な実験ならびに現地住民へのヒアリング調査）、伊藤委員（日本の地盤脆弱性の評価【地盤工学会関東支部委員としての発表】）と、多くの発表がなされた。

3. 防災展 2015

藤井副委員長より、2/27-28 に東京国際フォーラムで開催予定の東京都防災展に関する説明がなされた。出展の経緯に関しては、まずは土木学会に話があり、斜面委員会は学習本などの活動に取り組んでいることから学会側からの参加の誘いがあったとのことである。出展は、学習本で使用した内容を 7 枚のパネル（崖崩れ関連 4 枚・土石流関係 3 枚）にまとめて展示するなどの予定が説明された。

4. その他

鈴木委員長より、1 月に開催された第 3 回地盤工学委員会の議事録についての説明がなされ、今年度の予算執行の状況や来年度の全国大会の研究討論会への参加などについて報告がなされた。続いて、12/5-6 に開催された長野県北部地震の現地調査の概要についての報告がなされた後に、委員会としての今年度中に残っている主な仕事の確認と役割分担（主たる担当者）に関する報告がなされた。

今年度中の委員会の主な仕事と役割分担は以下の通りである。

- ・ 防災学習本（藤井、美馬）
- ・ 重点研究（鈴木、大野、野田）
- ・ 長野県北部地震の報告書（中村、瀬戸）

審議事項

1. 防災学習本 WG

藤井副委員長より、1/26（月）に開催された第 3 回学習本編集委員会の議事録に関する説明がなされた。その中で、小学生にわかりやすく読んでもらうための、ルビやレイアウトに関して、美馬幹事より小学校 6 年生の理科の教科書の内容について説明がなされた。また、元々学習本のイラストをお願いする予定であった方の都合が悪くなって、別の方を探す必要が出てきたため、土木系の内容のイラストができるイラストレーターの方をご存知の方は藤井副委員長まで連絡して欲しいとのお願いがなされた。

続いて、章ごとの内容や課題に沿いながら 2 章から順に検討をしていったが、レイアウトの統一性の問題、内容の難解さ、分量の多さなど、解決すべき課題はまだまだ多いことが確認された。

2. H27 度重点研究課題

鈴木委員長より、来年度の重点研究課題への申請に関する現時点での提案がなされた。H27 度重点研究課題の〆切は 2/13 日（17 時必着）であるが、地盤工学委員会の後藤副委員長（本小委員会オブザーバー委員）から分野横断型の提案が出されてくる予定であるので、それに合わせて対応していく必要があるとの見解が示された。

その一方で、本小委員会としても現段階での素案の確認を行い、

- ・広島災害などを意識した防災啓発（防災教育）の効果の評価
- ・学習本の活用（販売促進）、防災授業、アンケート
- ・危ない土地に家を建てないことを示す教育が重要

といった、防災教育関連の方向性で行く素案が確認された。

なお、重点研究課題のコンセプトは

- ・将来起こりうる問題の解決に向けた具体的・実用的な研究課題
- ・複数の委員会が合同で行う分野横断的な研究課題

であることから、他の委員会との連携が必須であり、社会コミュニケーション委員会や教育企画・人材育成委員会などとの連携が模索された。

3. 次回委員会開催日

次回委員会開催日は、4/2 もしくは 4/3 に行う予定であることが確認された。

4. その他

中村幹事より、「2014 年長野県北部地震の現地調査と地震発生の解釈」のタイトルで話題提供がなされた。